

清須学講座構成について（案）

1 講座構成

(1) 概要

講座開催にあたっての基本的な要件は次のとおり。

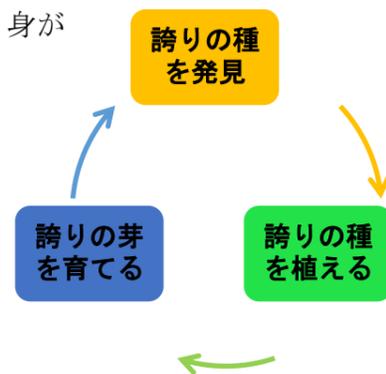
受講者ターゲット	本市の歴史的な地域資源に関心のある方や、市立小中学校、県立新川高校・五条高校及び愛知医療学院短期大学の教職員へも受講を勧奨
開催方法	座学、フィールドワークを組み合わせ、適切な講師を選定の上、全6講座開催する

(2) 基本的な考え方

① 講座の目的

シビックプライドの醸成と、その牽引役として、観光や教育等の分野で、幅広く地域で活躍できる人材を育成すること。

受講者自身が



誇りの種を発見するためのヒント

- まちの良さを見つけるには、まず「まちを知ること」が大切（新しい目で見てみる）
- ・ 今までにある地域資源に新しい光を当てる（活用の観点）
 - ・ 新しい手法を注入して、ありふれたものを資産として活かす

※ 講座は、左記のサイクルを作り出す“きっかけ”づくりの場となるよう構築するが、この種の取り組みに即効性のある手法はない。

② コンセプト

- まちの良さを知るためには、まず「まちを知ること」が大切。
⇒ まちの魅力を再発見することにつながるような地域資源のポイントを決めておく。
- 第一目的はシビックプライドの醸成で、地域資源に関する膨大な知識の提供ではない。
⇒ このまちを好きになるきっかけとなるような講座。

(3) 構成

組み合わせ	「座学」＋「フィールドワーク」						
ねらい	歴史的な地域資源に関する座学を中心に構成して、「マイスター」の育成を意識して、検定試験までのスムーズな流れをつくること						
構成案 (たたき台)	<p>ある程度網羅的な内容の「座学」とポイントを絞った「フィールドワーク」で構成【土日で2時間程度の開催を想定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 座学【5講座】 第1講は、複数の講師で交代して担当。第2講以降は1コマ1講師を想定 <table border="1"> <tr> <td>第1講</td> <td>美</td> <td>文化財や景観における美を扱う 朝日遺跡の赤彩土器（パレス・スタイル土器）や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、江戸時代に景勝地として名高かった枇杷島橋や現代の庄内川における眺望等、川辺の美観 ⇒ 美にまつわる地域像を確立</td> </tr> <tr> <td>第2 4 ・ 6講</td> <td>都市</td> <td>各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、地域全体の自然条件と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証。朝日遺跡、清須城（城下町）、美濃路において、それぞれが果たした意義を考えることで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認 また、清須越を通じた名古屋の街づくりへの影響（地名）等、本市が名古屋市のルーツに相当するという関係性を明らかにする。また、今日の清須がそうした特性をどう引き受けているのかについても確認 【第2講】朝日遺跡：東海地方最大の環濠集落であった朝日遺跡について 【第3講】清須城：清須城・城下町及び清須越し以降の清洲宿・五条川流域について 【第4講】美濃路：枇杷島市場、尾張西枇杷島まつり、庄内川、新川開削等について 【第6講】現 代：企業立地に適した地域である理由が、川・交通の要所といった前近代の都市基盤と軌を一にしている点を跡付ける内容を想定（キリンビール(株)様を中心に)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワーク【1講座】 講師はガイドボランティアの方に依頼することを想定。清須城界限、朝日遺跡、美濃路を軸に選定【第5講あたりを想定】 	第1講	美	文化財や景観における美を扱う 朝日遺跡の赤彩土器（パレス・スタイル土器）や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、江戸時代に景勝地として名高かった枇杷島橋や現代の庄内川における眺望等、川辺の美観 ⇒ 美にまつわる地域像を確立	第2 4 ・ 6講	都市	各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、地域全体の自然条件と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証。朝日遺跡、清須城（城下町）、美濃路において、それぞれが果たした意義を考えることで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認 また、清須越を通じた名古屋の街づくりへの影響（地名）等、本市が名古屋市のルーツに相当するという関係性を明らかにする。また、今日の清須がそうした特性をどう引き受けているのかについても確認 【第2講】朝日遺跡：東海地方最大の環濠集落であった朝日遺跡について 【第3講】清須城：清須城・城下町及び清須越し以降の清洲宿・五条川流域について 【第4講】美濃路：枇杷島市場、尾張西枇杷島まつり、庄内川、新川開削等について 【第6講】現 代：企業立地に適した地域である理由が、川・交通の要所といった前近代の都市基盤と軌を一にしている点を跡付ける内容を想定（キリンビール(株)様を中心に)
第1講	美	文化財や景観における美を扱う 朝日遺跡の赤彩土器（パレス・スタイル土器）や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、江戸時代に景勝地として名高かった枇杷島橋や現代の庄内川における眺望等、川辺の美観 ⇒ 美にまつわる地域像を確立					
第2 4 ・ 6講	都市	各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、地域全体の自然条件と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証。朝日遺跡、清須城（城下町）、美濃路において、それぞれが果たした意義を考えることで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認 また、清須越を通じた名古屋の街づくりへの影響（地名）等、本市が名古屋市のルーツに相当するという関係性を明らかにする。また、今日の清須がそうした特性をどう引き受けているのかについても確認 【第2講】朝日遺跡：東海地方最大の環濠集落であった朝日遺跡について 【第3講】清須城：清須城・城下町及び清須越し以降の清洲宿・五条川流域について 【第4講】美濃路：枇杷島市場、尾張西枇杷島まつり、庄内川、新川開削等について 【第6講】現 代：企業立地に適した地域である理由が、川・交通の要所といった前近代の都市基盤と軌を一にしている点を跡付ける内容を想定（キリンビール(株)様を中心に)					

2 テキスト構成

(1) 基本的な考え方

- テキストの作製にあたっては、『清須市歴史散策 美濃路あるき』（清須市教育委員会、平成 21 年度 3 月）を底本としつつ、加筆修正及び再編集を行うこととする。
- 「美」と「都市」という観点から、この地に暮らした人々の営みについて光を当てる。

【問題意識】（なぜ「美」と「都市」という観点を持ち込むのか）

- ① 「かつては栄えた土地だが、今は何も残っていない」という漠然とした共通認識（郷土史の過小評価）
- ② ①の共通認識には、「かつては栄えた土地」に、人々の営み（高い技術と豊かな精神性）によって生み出される洗練された成果物があることが見落とされている
- ③ 訪れてみたくなる（実物を見てみたくなる）ような情報の切り出し方で、従来の情報を再編する

観点	概要 [再掲]	観点の趣旨及び構成上のポイント						
美	<p>文化財や景観における美を扱う</p> <p>朝日遺跡の赤彩土器（パレス・スタイル土器）や清須城の金箔瓦といった全国的にも珍しい出土品、西枇杷島まつりの絢爛豪華な山車、江戸時代に景勝地として名高かった枇杷島橋や現代の庄内川における眺望等、川辺の美観</p> <p>⇒ 美にまつわる地域像を確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冒頭で、この地に花開いた美の回廊を案内し、郷土史理解のポイントを押さえる（関心を持つための“フック”を作るイメージ） ・ 「朝日遺跡」「清須城」「美濃路」等から各 3 点程度を「美」の対象として取り上げ、それらの鑑賞のポイントを記載（詳細な歴史的経緯等は後段の「都市」編にゆずり、ここでは対象を鑑賞するのに必要な観点を説明するに留める） <p>[鑑賞のポイントを明示]</p> <p>学問的客観性から遊離しない範囲で、対象を上手に誉める（単に客観的事実の解説に留まらず、対象を誉めるために客観的事実を構成）</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>「誉めたい要素」を抽出</p> <p>「誉めたい要素」を説明するために必要な客観的事実を収集</p> <p>「誉めたい要素」と「客観的事実」を組み合わせ、読み手の興味を引く情報として文章化</p> </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;"> <p>↘</p> <p>↘</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「美」の対象の例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #e0f0ff;">朝日遺跡</td> <td>赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0f0ff;">清須城・五条川</td> <td>金箔瓦、清洲花火…</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e0f0ff;">美濃路・庄内川</td> <td>山車の装飾、町屋建築、庄内川花見、赤とんぼ橋…</td> </tr> </table> </div> </div>	朝日遺跡	赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…	清須城・五条川	金箔瓦、清洲花火…	美濃路・庄内川	山車の装飾、町屋建築、庄内川花見、赤とんぼ橋…
朝日遺跡	赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…							
清須城・五条川	金箔瓦、清洲花火…							
美濃路・庄内川	山車の装飾、町屋建築、庄内川花見、赤とんぼ橋…							
都市	<p>各時代において、政治・経済や軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、この地域の地形と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証</p> <p>朝日遺跡、清須城（城下町）、美濃路において、それぞれが果たした意義を考えることで、現在のような名古屋市の「周辺」という地域像とは異なる来歴を確認</p> <p>また、今日の清須がそうした特性をどう引き受けているのかについても確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前段の「美」では、この地での営みの成果をハイライトで紹介し、郷土史理解のポイントを押さえたので、後段の「都市」では、そうした「美」を生み出す土壌となった人々の営み（都市生活）について扱う ・ 都市発達の要因となった地勢、政治及び社会経済的な背景の整理 ・ 都市を強調することで郷村集落が取りこぼされないよう、底本にあるものは全て採録し、追記するものは、神社仏閣の価値等から判断して採録する（阿原地区の河原神社、土田地区の石清水八幡宮や春日八幡宮等） ・ 宮重大根（底本採録済み）や土田かぼちゃといった伝統野菜についても頁を割き、食の地域資源についても言及する ・ 今日の清須が過去に繁栄した都市基盤をどう引き受けているのかを確認する（キリンビール株式会社の立地理由やものづくり等を通じて、その特性を理解する内容を想定） 						

※ テキストの作成工程については、講座各回での段階的に配付で対応することとし、編集とりまとめを行ったものを年度末までに印刷製本する予定。

(2) 構成案

底本（『清須市歴史散策 美濃路あるき』）		頁	清須学テキスト（案）		備考	頁												
1	清須市の概要[分量：6頁] ・ 清須市の現在 ・ 清須市の歴史概観 ・ 近世以降の清須市域の変遷	3 ～	1	清須市の概要 ・ 清須市の現在 ・ 清須市の歴史概観 ・ 近世以降の清須市域の変遷	・ 底本を基本とし、春日町との合併等、底本刊行以降の動向を反映する等の修正を施す	3 ～												
2	美濃路周辺ガイド[分量：34頁] ・ [美濃路ガイド略図] ・ 美濃路 ・ 美濃路を通った人・物 ・ 枇杷島橋と中島 ・ 下小田井市 ・ 屋根神様 ・ 問屋町記念館 ・ 尾張西枇杷島まつりと山車 ・ 一休庵・飴茶庵 ・ 庄内川洪水被害と新川開削 ・ 新川ポケットパーク ・ 新川橋と新川舟運 ・ 駿河塚（今川塚） ・ 長谷院 ・ 阿波手の森と甚目寺観音 ・ 一里塚 ・ 正覚寺 ・ おはん長右衛門 ・ 日吉神社（山王社） ・ 清洲農場試験場 ・ 名鉄清洲線 ・ 五条川・五条橋・清洲花火 ・ 清須越 ・ 清洲宿 ・ 清須城（歴史・城跡） ・ 清洲城天主閣 ・ 清涼寺 ・ 上島神明社 ・ 清洲城下町遺跡 ・ 朝日遺跡 ・ 貝殻山貝塚資料館 ・ 総見院 ・ 御園神明社 ・ 清洲陣屋 ・ 尾張宮重大根	7 ～	2	「美」 [20頁以内を目安に編集] ・ [略図] ・ 「美」の対象を選定し、その「鑑賞のポイント」を記載 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">地域資源</th> <th style="width: 40%;">「美」の対象</th> <th style="width: 30%;">鑑賞のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日遺跡</td> <td>赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>清須城・五条川</td> <td>金箔瓦、清洲花火…</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>美濃路・庄内川</td> <td>山車の装飾、町屋建築、庄内川花見、赤とんぼ橋…</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	地域資源	「美」の対象	鑑賞のポイント	朝日遺跡	赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…	—	清須城・五条川	金箔瓦、清洲花火…	—	美濃路・庄内川	山車の装飾、町屋建築、庄内川花見、赤とんぼ橋…	—	・ 写真を多用し、なるべく読み手が共通のイメージを持てるようにする	7 ～
地域資源	「美」の対象	鑑賞のポイント																
朝日遺跡	赤彩土器、骨角牙製装身具、勾玉…	—																
清須城・五条川	金箔瓦、清洲花火…	—																
美濃路・庄内川	山車の装飾、町屋建築、庄内川花見、赤とんぼ橋…	—																
			3	「都市」[80頁以内を目安に編集] ○ 「朝日遺跡」 ・ [略図] ・ 朝日遺跡（追加） ・ 朝日塚資料館 ○ 「清須城・美濃路（清洲宿）・五条川」 ・ [略図] ・ 正覚寺 ・ おはん長右衛門 ・ 日吉神社（山王社） ・ 清洲農場試験場 ・ 名鉄清洲線 ・ 五条川・五条橋・清洲花火 ・ 清須越 ・ 清洲宿 ・ 清須城（歴史・城跡） ・ 清洲城天主閣 ・ 清涼寺 ・ 上島神明社 ・ 清洲城下町遺跡 ○ 「美濃路（下小田井市）・庄内川」 ・ [略図] ・ 枇杷島橋と中島 ・ 下小田井市 ・ 屋根神様 ・ 問屋町記念館 ・ 尾張西枇杷島まつりと山車 ・ 一休庵・飴茶庵 ・ 庄内川洪水被害と新川開削 ・ 新川ポケットパーク ・ 新川橋と新川舟運 ・ 駿河塚（今川塚） ・ 長谷院 ・ 阿波手の森と甚目寺観音 ○ 現代 ・ [略図] ・ (キリンビール) ・ (追加) ○ 「郷村」 ・ [略図] ・ (河原神社) ・ (石清水八幡宮) ・ (春日八幡宮) ・ 尾張宮重大根 ・ (土田かぼちゃ) (追加)	・ 清洲公園・清洲古城跡公園を追記すべきと史料	27 ～												
3	資料編[分量：40頁] ・ 資料(1～56) ・ 元号・西暦対照表 ・ 参考文献 ・ 施設案内 ・ 年表 ・ 資料一覧	41 ～	4	資料編[60頁以内を目安に編集] ・ 資料(1～●) ・ 元号・西暦対照表 ・ 参考文献 ・ 施設案内 ・ 年表 ・ 資料一覧	・ 「清須市指定文化財」一覧を追記する	91 ～												
		全 80 頁				全 100～160 頁												

【加筆・編集の基本的方向性】

(1) 都市機能のポイント整理[2頁～4頁程度](全体で最大20頁)
「○」項目の単位で、各時代・各エリアにおける、政治・経済乃至は軍事上の拠点として果たした都市機能に注目し、この地域の地形と時代環境がどう符合して、この地に都市が発達したかをテーマごとに検証

(2) 略図[2頁程度](全体で最大10頁)
その単元で扱う地域資源(「・」小項目単位)の分布図を記載

(3) 地域資源の詳細説明(「・」小項目単位)(従前分34頁+加筆分16頁程度)
従前の原稿を活かしつつ、必要な時点修正を行い、適宜項目を加筆する